

ヤクーツクを訪ねて

星 子 廉 彰

10年程前、ヤクーツクを訪ねており今回2度目である。当時の思いでは親子のカラフトフクロが見られた事である。ハクチョウについては昔は渡りの頃夜眠れない程の騒々しさであったが10年前の説明では市街を通過するのはみられない（野生生物研究所）。

今回早速タイガで沼を案内されたが木立の中に入ると、たちまち蚊の猛襲にあった。蚊の習性として黒い色をこのむとの実証がなされた、蚊は肌の静脈を瞬時に捜し当て口吻を刺し2秒以上吸血をするといわれ、刺された時は殆ど痛みを感じない、雌のみの吸血で卵巣の発達、水分補給に役立てていると言われている。発汗、体臭に呼応して動物を攻める、無風の藪の中は鼻の穴まで飛び込み息が詰まりそう、心臓が止まり、発狂の一步手前。

今回のプロジェクト活動の目的オオハクチョウの追跡レナ川で発信器装着する事であるためにヤクーツク野生生物研究所、日本白鳥の会、日本野鳥の会（日・ロで計画）メンバーが世界最大級のレナ川流域に挑戦した、多くの支流が本流にそそぎ込みその様相は巨大な幹が長い時を経過して枝葉を伸ばした大樹を思わせ、支流を熟知していなければ人は決して近づけない、レナ川は北極圏のラプテフ海に注いでいる全長4400km 大小約240万の支流があると言われる。レナ川の語源はエベンキ民族の言葉Yulyuene（大きな川の意味）に由来していると言われる。

サンガール飛行場より軽飛行機で約3時間タイガ上空を飛ぶ、数羽のオオハクチョウ、ムース、ヒグマが視界に飛び込み興奮気味。

レナ川を北上20トン級の船を夜半走らせ殆ど白夜の状態早朝3時仮停泊現地の狩猟監視人と合流、川原で川魚メニューの朝食、川原に熊の足跡を見る。

更に北上して川辺に活動基地を設け、ヘリコプターでタイガ上空を偵察平坦で広大なシベリアの自然を満喫、更に30HP、5HPモーターボードで支流に入り込み探査出来ました事について充分な満足感を得ました。結論としてはこの地域でのオオハクチョウ追跡は難しい。最後にこの度の企画をなされた方々に心から厚く感謝お礼を申し上げます。